



●赤谷の森のいま

三国山におけるニッコウキスゲ群落の
保全対策について

環境省信越自然環境事務所

谷川管理官事務所 国立公園管理官 福元 風夏

●地域と繋がる赤谷プロジェクト

ネイチャーガイド 高橋 邦聡

●地域と育む「雪舞うゴンドラクルーズランチ」

イヌワシ木材が繋ぐ、人と自然の調和

谷川岳ヨッホ/Mt.T by 星野リゾート 総支配人室 大塚 弥生

(いきもの村のシロツメクサとヒメシジミ 撮影：赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYANO MORIDAYORI

赤谷の森だより

2025.8.1

vol. 59

AKAYA no MORI

今回のテーマ

ミニ写真館

「赤谷の森の避暑地」

(写真：赤谷森林ふれあい推進センター)



ムタコ沢



ヤマメ(ムタコ沢)



アマガエル(いきもの村)



小出俣沢



茂倉沢

保全対策について

2024年6月より上信越高原国立公園谷川管理官事務所 国立公園管理官の福元と申します。上信越高原国立公園の北側にあたる谷川地域と苗場地域の担当として、自然公園法に基づき国立公園の景観を守る仕事等しております。よろしくお願ひいたします。

上越越高原国立公園の谷川連峰に位置する三國山の山腹は、元々ニッコウキスゲ群落が広がるお花畑でしたが、近年急速にその規模が縮小しています。その要因として、シカの食害とササの繁茂があげられています。シカの食害については、赤谷プロジェクトでシカ柵による保全区画を作る取組を行ってきたのだいており、その成果としてニッコウキスゲの増加も確認されていると

谷川管理官事務所では、もう一つの要因であるササの繁茂に着目し、2022年から2024年まで、3年間のグリーンワーカー事業として、繁茂しているササの刈り払い及びニッコウキスゲ等高山植物の生育状況等調査を実施し、ササの刈り払いのみを行った場合にどのように植生が回復していくのかという効果検証を行いました。今回はその調査の結果について皆さんにご紹介させていただきます。なお、データの収集に際しては、年度ごとに調査手法を増やしてきたため、一部データに情

報バイアスがかかってしまっていることをご承知おきください。

調査は三国山の稜線を通る登山道をまたいで、群馬県側と新潟県側の2区画を調査区域として設定し、さらにその中を登山道に近い場所から順に春刈りのみ、春秋2回刈り、秋刈りのみの3区画ずつに分割しました(図1)。

まずはササ刈り後に出てきた植物の個体数について、6つの区画すべてで増加傾向がみられ、特にA・aの春刈り区間で多く確認されました(図2)。特にニッコウキスゲの増加が顕著であることから、ササ刈り以外にも保水力等の別の好適要因が存在することが考えられそうです。また、その他環境的なバイアスとして、春秋2回刈り区間と比べて春刈りのみで行った区間の方が多くの個体数が確認されたことから、本区間に關しては歩道に面しており日当たりが他と比べて良いこと、調査区域外の歩道付近にニッコウキスゲなどの植物がみられることなどが有利であった可能性があります。



▲図1:調査区間(緑色区域が春刈り、橙色区域が秋刈り)



▲図3：区画ごとの確認種数の推移



▲図2:区画ごとに確認した植物数の経時変化をまとめた推移

目はニッコウキスゲ1種のみでしたが、2年目から3年目にかけて全体的な確認種数が増加傾向にある事がわかりました(図3)。また、確認種数に新潟県側・群馬県側で大きな違いはないことから、個体数の方で示唆された環境条件の点については影響が大きくなかったものと思われる。

今回の調査中、ニッコウキスゲが見られたのは新潟県側のみとなり、実際につぼみを付けたのは一個体ののみとなりました(写真1)。しかし、ササ刈りがニッコウキスゲのみならず多くの植生回復の助けになることは確かだといえるでしょう。過去三国山で見られたニッコウキスゲのお花畑の景観を取り戻していくためには、シ力対策も重要ですが、こうした日常的な管理も重要になってくる

的に協力してくださったみくに山の会や地元の方で、日常的な登山道維持管理の一部に本事業の成果を反映してください。今後



◀写真1:調査地で見られたニッコウキスゲのつぼみ



▲写真3:植物調査の様子



▲写真2:左は刈り払い前、右は刈り払い後



で協力していければと考えておりますので、皆様引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



環境省信越自然環境事務所
谷川管理官事務所
国立公園管理官

ふくもと

ふうか

福元 風夏

地域と繋がる 赤谷プロジェクト

ネイチャーガイド

たかはし くにあき
高橋 邦聡さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

今年から故郷のみなかに戻って参りました。みなかみ山岳ガイド協会所属の登山ガイド、高橋邦聡と申します。お客さまに奥利根・みなかみの自然の素晴らしさをご案内して、それを守り伝えていくことの大切さを感じていただけるよう心がけています！

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

以前からイヌワシの狩場創出などの活動に感心を持っておりまして、昨年、知り合いのガイドさんから赤谷森林ふれあい推進センターの方々をご紹介いただく機会がありました。その縁で今年から赤谷の森の自然散策などでガイドを担当させていただいています。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

最近は登山者にも環境問題に感心の高い方が多く、登山道整備の体験ツアーなども好評なようです。このような環境への貢献意欲が高い方々を呼び込むような活動を行って



平標山頂のホシガラス

みたいです。首都圏から1時間ちょっとでアクセスできる地ですから、都会で生活している方々が週末に集まり地元の人と一緒に赤谷の生態系を守る、そんなコミュニティづくりに貢献できれば楽しいですね。

赤谷プロジェクトへ一言！(何でもOK!)

先日、推進センターのみなさんと山を歩き、森林生態系を維持管理する側の方々の視点や知識に触れて、もっと地元赤谷の山を深く知りたいと感じました。環境調査や整備作業などの活動にも参加させて頂きたいと思っています！



ガイド風景

地域と育む

「雪舞うゴンドラクルーズランチ」 イヌワシ木材が繋ぐ、人と自然の調和

1959年に開業した谷川岳ロープウェイ。昨年12月に「谷川岳ヨッホ by 星野リゾート」と名称を変更し、谷川岳の奥深い魅力と多様な楽しみ方を発信する拠点として生まれ変わりました。

そんな中で私たちが目指したのは、ロープウェイを単なる移動手段で終わらせない、滞在を彩る特別な体験の場の創出です。その思いから、2024年12月に「雪舞うゴンドラクルーズランチ」が誕生しました。

このプランは、ゴンドラ内でランチセットを味わいながら、雄大な雪景色をゆったりと楽しんでいただくというもの。谷川岳の冬の厳しさとは対照的に、ゴンドラ内ではまるでスイスの山小屋にいるかのような、温かく心地よい空間を提供したかったのです。

この構想を実現するため、地元の笛木建設さんに相談したところ、イヌワシ木材の活用を提案いただきました。上毛高原駅のイヌワシストアでその家具を目にした時、その素晴らし



しい質感に一目惚れし、ゴンドラ内に設置することで、想像以上の魅力を引き出してくれると考え早速依頼しました。

特製ゴンドラのテーブルと椅子にイヌワシ木材を使用し、レトロヨーロピアンな雰囲気を出すため、落ち着いた色合いのニスで着色し、温かみのある質感を際立たせています。クッションやカーテンも空間に彩りを添えています。やはりイヌワシ木材が醸し出す温かい雰囲気こそが、この特別なゴンドラの最大の魅力です。今後も、イヌワシ木材の魅力や、この取り組みに至った背景を積極的にお客様へ発信していきます。



谷川岳ヨッホ / Mt.T by 星野リゾート
総支配人室

おおつか やよい
大塚 弥生さん





色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R7.4.20

アイチコーポレーション駅伝大会 クラフトブース
総勢約600人により開催された社内駅伝大会に赤谷プロジェクトブースを設置し、ストラップづくり体験等を実施。
(場所:株式会社アイチコーポレーション 新治事業所)



R7.4.24

B S朝日「つながる絵本 for SDGs」
赤谷プロジェクト「動物を守る森」をテーマにイヌワシ保全の取組について撮影。5月24日に放映され、YouTubeでも配信中。(場所:第4次イヌワシ狩場試験地)



R7.5.22

新治小学校5年生遠足
タゴガエルの鳴き声に耳を澄ましながら、スギ・ブナなどの樹木を観察し、動物の生態を調べるためのセンサーカメラを設置。(場所:小出保林道)



R7.5.24

赤谷の森自然散策(春) 三国山に登ろう!
新潟県側から三国山山頂ルートにおいて、三国権現を経由し、春の妖精ニリンソウ群落、尾根筋からの雄大な赤谷エリアの景色を満喫。(場所:三国山)



R7.5.30

利根商業高等学校ふるさと創生学
森林の水源涵養機能や人工林、自然林など、森林と人間生活の繋がりを学習。(場所:無多子沢)



R7.6.12

新治小学校6年生遠足
樹齢数百年を超えるミズナラなど、自然林を観察しながら旧街道の歴史を学習。
(場所:旧三国街道(群馬県側→新潟県側))

新しい WEBサイトがオープン!



新たに赤谷プロジェクトとイヌワシ木材のWEBサイトがオープンしました。赤谷プロジェクトのサイトには、赤谷プロジェクトがどんなプロジェクトなのかについての説明や関係者へのインタビュー記事などが掲載されています。また、イヌワシ木材のサイトからは、この取組の目的や木材の活用事例をチェックすることができます。ご興味のある方はぜひのぞいてみてください!

イヌワシ木材は
こちらから

赤谷プロジェクトは
こちらから



赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万ha(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

イベントのお知らせ

赤谷の森自然散策(秋)

日 令和7年10月25日(土)
時 9:00~16:00(予定)
場 旧三国街道(群馬県利根郡みなかみ町)
¥ 無料
申 要申込
※9月下旬頃にHP・SNS等でお知らせします

難易度:低



赤谷森林ふれあい推進センター

検索

トレッキングやイベントの詳細は
赤谷センターHPをチェック!



赤谷プロジェクト サポーター募集!

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。



■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会 ☞ akaya@nacsj.or.jp

follow me



この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 森本 裕希子

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 栗田 喜則

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp